

令和元年度 第3回 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会 会議録 (概要)

日時 令和2年2月17日(月) 午後2時00分から午後3時40分

場所 鎌ヶ谷市役所地下1階 団体研修室

出席者 黒岩史郎会長、菊地謙副会長、高橋貴子委員、江間由紀夫委員、渡辺浩隆委員、金子あかり委員、鳥居律子委員、松村桂子委員、小川洋委員、櫻澤美智子委員、飯高優子委員、西出信夫委員、會澤奈穂子委員、早坂ひとみ委員、石塚友子委員、林宏幸委員(鎌ヶ谷市社会福祉課長)

欠席者 山根清孝委員、井手勝則委員、山本幸子委員、村田セツ子委員、三浦健委員、舘岡文委員(鎌ヶ谷市健康増進課主幹)

関係者 星野暁洋【障がい者の働くを支えるチームリーダー】、渡辺博【地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチームリーダー】、上谷豪【障がい者のつながりを支えるチームリーダー】、高畑和幸【障がい分野の情報を発信・啓発するチームリーダー】、福田弘子【精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チームリーダー】、筒井正昭【ソーシャルインクルー株式会社】

事務局 (障がい福祉課) 星野里香課長、星直子庶務係長、中村浩主査補、鈴木俊雄(鎌ヶ谷市基幹相談支援センターえがお) 渡辺恵美子所長、馬場武士

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 2名

添付資料

式次第

資料1

- ① 地域連携部会について
- ② 協議会の組織図
- ③ 地域連携部会名簿
- ④ テーマ別チーム名簿
- ⑤ 「障がい者のつながりを支えるチーム」におけるチームビルディング研修実施報告書
- ⑥ テーマ別チーム参加者アンケート
- ⑦ 【参考】令和2年度会議スケジュール(案)

資料2

- ・鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会の年間スケジュール(全体)
- ・チーム別 検討結果説明のための骨格整理シート、具体的手法実施のための6W1H

資料3

- ・年度変わりによる新旧チームの移行について
 - ① 年度変わりによる新旧チームの移行イメージ図
- ・報告会&課題収集のためのワークショップ【令和2年3月17日開催】について
 - ② 概要(「具体的手法実施のための6W1H」による)
 - ③ 報告会&ワークショップの進行イメージ
 - ④ 2019年度 テーマ別チーム報告資料

資料4

- ・鎌ケ谷市コミュニケーション支援ボード

資料5

- ・「テーマ別チームってなんだろう」

その他

- ・地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム 通学・通所に関するアンケート調査結果
- ・令和元年度鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会委員一覧
- ・ソーシャルインクルーホーム鎌ケ谷東初富 レジюмеとチラシ

<本日の傍聴人及び会議の出席状況について>

事務局より、出席者数（16名）が会議開催の定足数である「委員の過半数の出席」を満たしていること及び傍聴者が2名であることを報告した。また、習志野健康福祉センターの委員の変更を報告した。

地域連携部会テーマ別チームの検討状況の報告について

地域連携部会長及び各テーマ別チームのチームリーダーから資料2をもとに、チームごとの検討状況について報告した。

- (1) 障がい者の働くを支えるチーム
- (2) 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム
資料「地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム 通学・通所に関するアンケート調査結果」を説明した。
- (3) 障がい者のつながりを支えるチーム
- (4) 障がい分野の情報を発信・啓発するチーム
- (5) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム
- (6) 医療的ケア児支援チーム

地域連携部会長

テーマ別チームからの報告は以上となる。

会長

只今の報告、説明について質疑があればお願いしたい。

質疑特になし

年度変わりによる新旧チームの移行及び課題収集のためのワークショップの開催について

事務局より、以下のとおり資料3について説明した。

- ・年度変わりによる新旧チームの移行について
 - ① 年度変わりによる新旧チームの移行イメージ図
- ・報告会&課題収集のためのワークショップ【令和2年3月17日開催】について
 - ② 概要（「具体的手法実施のための6W1H」による）
 - ③ 報告会&ワークショップの進行イメージ
 - ④ 2019年度 テーマ別チーム報告資料をもとに説明した。

会長

只今の報告、説明について質疑があればお願いしたい。
質疑特になし

コミュニケーション支援ボードの作成について

事務局より、資料4「鎌ヶ谷市コミュニケーション支援ボード」について説明した。
防災担当である安全対策課と連携して、指定避難所21カ所に7セットずつ設置を進めている。来年度からは、避難訓練で支援ボードの使い方を説明し自治会や地域の方に周知する。これをきっかけに障がいについてもっと知っていただくようにしたい。

会長

只今の報告、説明について質疑があればお願いしたい。

委員

実際に障がいを持っている人がこの支援ボードを目にする機会は、災害時ということになるのか。施設や事業所等にも配付して、それぞれの施設や事業所での避難訓練等を通じて周知できれば災害時にもスムーズに運用できるのではないか。

事務局

引き続き効果的な周知の方法について考えていきたい。

その他

事務局より、資料1及び資料5をもとに説明した。

- (1) チームビルディング研修の実施報告について
- (2) 「テーマ別チームってなんだろう」の更新について
- (3) チームメンバーを対象としたアンケートの実施について
- (4) 次年度のスケジュールについて

会長

只今の報告、説明について質疑があればお願いしたい。

委員

チームビルディング研修のアンケートに書かれていた内容で「自立支援協議会に提言しても何一つ解決しないし、状況は変わっていない気がします。」という気になる意見があった。チームの活動は活発に行われているが、実際に地域の障がいをもっている方の生活改善にどこまで繋がったのか。各チームの活動を統合して総合的に評価できるものがあるとよいと思う。

事務局

今回専門部会の改編後初めてチームを編成し、各チームとも活発に活動を行えた。次のステップとして鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会（以下「自立支援協議会」という。）の本会議についてチームの方向性や評価を行える形を模索していきたい。本日この会議後にそのための第1段階としてワークショップを行うことになっている。

事務局

このアンケートの記載内容について直接回答者に確認したところ、地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチームで実施した「通学・通所に関するアンケート調査」について、以前も同様のアンケートに回答したことがあり、年度が変わるごとにまた1から始まる感じをいただいたということであった。今年度のチーム活動についてはしっかり記録を残し、次のチームに引き継ぐこととしている。また、チームメンバーに、自立支援協議会の本会議や地域連携部会の内容が上手く伝わっていないこともあり、各チー

ムリーダーからメンバーに伝えていただくよう要請させていただいた。

- (5) 日中サービス支援型指定共同生活援助における協議会への報告及び評価についてソーシャルインクルー筒井氏より、ソーシャルインクルーホーム鎌ヶ谷東初富のレジュメをもとに説明した。

石塚委員 ※

日中サービス支援型グループホームの運営にあたっては、年に1回以上、自立支援協議会に報告し評価することとなっているため、今回ソーシャルインクルーホーム鎌ヶ谷東初富について報告するものである。

※ 千葉県が健康保健センター(保健所)の圏域ごとに設置する「障害者等グループホーム支援ワーカー」

会長

只今の報告、説明について質疑があればお願いしたい。3つのケースについて入所可能か否かを確認したい。

- ① 65歳を過ぎ高齢障がい者となり、介護保険への移行がなかなか進まなく、日中活動も難しくなった方
- ② 進行性の難病で電動車イスを使用、一人暮らし、ヘルパー等の医療的ケアが必要な方
- ③ 重度の知的障害で自閉症、てんかんをもっていて行動障害もあるため日中活動の受け入れ先がない方

ソーシャルインクルー筒井氏

- ① 障がい福祉の受給者証が使えるようになれば可能。
- ② 要相談。難病が進んだ時に、どこまで対応できるかという問題を事前に相談しておく必要がある。
- ③ 可能である。

石塚委員

日中サービス支援型には共有スペースの規制がないため、日中長時間を過ごすための十分な広さやニーズに合ったものが提供できるのかが課題である。

委員

日中サービス支援型では、日中活動に通所している方の入所も可能か。

ソーシャルインクルー筒井氏

可能である。

事務局

委員の皆さんは、この後のワークショップに引き続き参加していただきたい。

会長

ほかになれば、以上で会議を終了する。

閉会

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和2年4月7日

氏名 黒岩 史郎 _____

氏名 飯高 優子 _____